

福祉サービス第三者評価結果報告書（2021 年度）

2022 年 3 月 28 日

社会福祉法人京都市社会福祉協議会
紫竹児童館 館長 殿

〒150-0002

所在地 東京都渋谷区渋谷 2-12-15 日本薬学会ビル 7F
評価機関名 一般財団法人 児童健全育成推進財団
(東京都福祉サービス評価第三者評価機関/機構 12-215)

電話番号 03-3486-5141
代表者氏名 理事長 鈴木 一光



以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名	評価者氏名		所属
	①	渡部 博昭	児童健全育成推進財団 第三者評価室主たる評価者 東京都評価者番号 H1201036
	②	水野かおり	児童健全育成推進財団 第三者評価室主たる評価者 東京都評価者番号 H2101015
福祉サービス種別	児童館		
評価対象施設名称	紫竹児童館		
施設連絡先	所在地	〒603－8422 京都府京都市北区紫竹下園生町 26	
	電話番号	075-495-1193	
施設代表者氏名	館長 兒玉 洋子		
契約日	2021 年 1 月 20 日		
自己評価票回答期間	2021 年 5 月 28 日～2021 年 6 月 30 日		館長・事務局回答項目
職員調査票回答期間	2021 年 9 月 10 日～2021 年 9 月 24 日		職員回答項目
訪問調査日	2021 年 11 月 11 日		

京都市紫竹児童館評価結果

I. リーダーシップと意思決定

1 事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている		
1	事業所が目指していること（理念、基本方針）を明確化・周知している	
	1. 事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）を明示している	○
	2. 事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている	○
	3. 事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている	○
2	経営層（運営管理者含む）は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている	
	1. 経営層は、自らの役割と責任を表明し、職員に伝えている	○
	2. 経営層は、経営の改善、児童館活動の質の向上などに向けて取り組むべき方向性を提示し、指導力を発揮している	○
【講評】		
法人は基本構想と児童館担当部の事業計画を明示して、実現に向けた取り組みを行っています		
① 法人は「京都市の社協基本構想」を掲げ、住民主体の地域福祉活動の発展と地域共生社会の実現を唱めています。このことを法人のホームページ、広報誌、パンフレット、などの媒体により広く公表し、利用者への周知を図っています。児童館職員に対しては、その理解を深めるための研修を行い、目指す姿の実現のために自館の業務の中で何をするのかについて具体例を挙げながら話し合う機会を持ちました。児童館事業部としての事業計画を定めています。ホームページ等で公表するほか、各児童館の事業計画立案の基礎になっています。		
② 経営層は、業務権限や責任所在に関する「専決規程」を定めて自らの役割と責任の所在を明示しています。		
③ 同じ行政区の法人所管児童館の館長によるグループ制を導入しています。各グループに部長を配置し、グループの統括、グループ館長会をスムーズに行う運用としています。このことにより、法人の意向や必要な事務連絡、各館の情報交換が円滑に行われるようになっています。		

Ⅱ. 経営における社会的責任

1 社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		
1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知している		
1. 福祉サービスに従事する者として、守るべき法・規範・倫理（個人の尊厳）などを明示している		○
2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理（個人の尊厳）などの理解が深まるように取り組んでいる		○
3. 事業所のコンプライアンスや社会的責任を明確にして、職員保護や法令遵守に対する取り組みをおこなっている		○
2 第三者による評価の結果公表、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている		
1. 第三者による評価の結果公表、情報開示など外部の導入を図り、開かれた組織となるよう取り組んでいる		○
2. 透明性を高めるために、地域の人目にふれやすい方法（事業者便り・会報など）で地域社会に事業所に関する情報を開示している		○
2 地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		
1 事業所の機能や福祉の専門性を生かした取り組みがある		
1. 利用者と地域との交流を広げるための地域への働きかけを行っている		○
2. 事業所の機能や専門性は、利用者に支障のない範囲で地域の人に還元している（施設・備品等の開放、個別相談など）		○
3. 地域の人や関係機関を対象に、事業所の機能や専門性を生かした企画・啓発活動（研修会の開催、講師派遣など）を行っている		○
2 ボランティア受け入れに関する基本姿勢を明確にし、体制を確立している		
1. ボランティアの受け入れに対する基本姿勢を明示している		○
2. ボランティアの受け入れ体制を整備している（担当者の配置、手引き書の作成など）		○
3 地域の関係機関との連携を図っている		
1. 事業所として必要な関係機関との連携が、適切に行われている		○
2. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働して取り組めるような体制を整えている		○
【講評】		
地域の福祉を担う法人として、児童館も社会的責任を果たす事業に取り組んでいます		
<p>① 職員の心得やサービス姿勢を「信条」に明示しています。「職場倫理マニュアル」の策定、「職場倫理チェックシート」を作成し、各館が活用することで倫理意識の維持・向上に努めています。管理職対象のハラスメント研修、職員全体に「障害者差別解消法」研修を行う等、職員保護や法令遵守の推進を図っています。例えばハラスメント対応については、職員の職種に関わらず、採用時に法人の「ハラスメント防止に関する要綱」を明示して職員に周知しています。</p> <p>② 「事業報告書」「情報公開規程」「第三者評価受審結果」等必要な情報開示を行っています。また、所管児童館共通で実施する「利用者共通アンケート」の結果を「児童館だより」等に掲載し公表しています。</p> <p>③ 法人は地域公益活動を最重要事項の一つとしています。各児童館では、他施設との交流、地域の方々にも参画してもらう「児童館まつり」の開催、児童館運営協力会を組織し実施するなど、地域への働きかけを積極的に行う姿勢です。</p> <p>④ 各館におけるボランティアの積極的な受け入れも進めています。その際の「ボランティアの手引き」もひな形を示しています。倫理面、個人情報保護等については、準職員やボランティアにも職員同様に適用することを伝えています。</p> <p>⑤ 京都市地域子育て支援ステーション事業の基幹ステーションとして、地域の子育てに関わる関係機関や団体の中核として、子どもに関わる情報交換や会議、研修、子育て家庭に向けた事業を実施しています。</p>		

Ⅲ. 利用者意向や地域・事業環境の把握と活用

1 利用者意向や地域・事業環境に関する情報を収集・活用している

1 利用者一人ひとりの意向（意見・要望・苦情）を多様な方法で把握し、迅速に対応している（苦情解決制度を含む）

- | | |
|--|---|
| 1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている | ○ |
| 2. 利用者が相談や意見を述べやすい環境を整備し、利用者等に周知している | ○ |
| 3. 利用者一人ひとりの意見・要望・苦情に対して組織的に解決に取り組んでいる | ○ |

2 利用者意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる

- | | |
|---|---|
| 1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向を把握することに取り組んでいる | ○ |
| 2. 利用者の意向をサービス向上につなげることに取り組んでいる | ○ |

3 地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している

- | | |
|--|---|
| 1. 地域の福祉ニーズの収集（地域での聞き取り、地域懇談会など）に取り組んでいる | ○ |
| 2. 福祉事業全体の動向（行政や業界などの動き）の収集に取り組んでいる | ○ |

【講評】

苦情解決制度や利用者アンケートなどの方法でニーズや要望を把握し、サービス向上に繋げています

- ① 「苦情解決規則」を整備しています。これに基づいて第三者委員会を設置するとともに、児童館には苦情申出窓口を設置し、利用者の意見の受け止めに努めています。苦情解決制度の案内は館内に掲示して利用者への周知を図っています。日常的に職員が意見や要望を聞いたときは、施設長に報告して速やかな解決に努め、必要に応じてと法人と共有して対応を図ります。
- ② 毎年「利用者共通アンケート」を実施して、利用者の意向を児童館の事業計画や運営改善に活かしています。アンケートは法人本部で集約し、質問内容は定期的に刷新したり、表現の変更を行ったりしています。また、アンケート結果を児童館に掲示したり、児童館だよりに掲載したりして利用者や地域住民に公表し、透明性の確保とサービス内容の向上に努めています。
- ③ 放課後児童クラブでは、保護者懇談会や個人面談を実施して個別的な要望や意向を把握しています。また、日常の会話や連絡帳を通して児童館と家庭の共通認識が図られるように努めています。子どもの意見の尊重や子どもの主体的な活動を促す取組みとして、児童館ごとに子ども会議等を実施したり、意見箱を設置したりしています。子どもが意見を出し合って、活動の内容を決めたり、購入する物を決めたりしています。
- ④ 他団体が委託を受けている「中三学習会」や地域の実行委員会が開設している「子ども食堂」に施設提供や職員派遣を行い、地域への公益的役割を果たすことができています。

IV. 計画の策定と着実な実行

1 実践的な課題・計画策定に取り組んでいる

1	取り組み期間に応じた課題・計画を策定している	
1.	中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている	○
2.	中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている	○
3.	単年度の計画は、担当者・スケジュールの設定などを行い、計画的に取り組んでいる	○
2	多角的な視点から課題を把握し、計画を策定している	
1.	事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われている	○
2.	事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しについて職員が理解している	○
3.	事業計画は、サービスの現状（利用者意向、地域の福祉ニーズや事業環境など）を踏まえて策定している	○
4.	事業計画は、利用者に周知され、理解を促している	○
3	着実な計画の実行に取り組んでいる	
1.	計画推進の方法（体制、職員の役割や活動内容など）を明示している	○
2.	計画推進にあたり、目指す目標と達成度合いを測る指標を明示している	○

2 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる

1	利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる	
1.	リスクマネジメント体制を構築し、事故、感染症、侵入、火災、自然災害などの事例の収集と要因分析と対応策の検討・実施が行われている	○
2.	事故、感染症、侵入、火災、自然災害などの発生時でもサービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関などに具体的な活動内容が伝わっている	○
3.	子どもに施設・遊具の適切な利用方法を伝え、安全に遊べるようにしている	○
4.	子どものケガや病気の応急処置の方法について、研修や訓練に参加している	○

【講評】

社協基本構想を基礎にマニュアルや事業計画が策定され、計画的な運営が行われています

- ① 「京都市の社協基本構想」で今後5年間の児童館の中期計画を示しており、自治体の方針や社会状況に照らして時宜に応じた変更などを検討するようになっていきます。各児童館の単年度の事業計画もこの中期計画を基準にして策定しています。各児童館では、年度末に児童館事業、放課後児童クラブ事業別に年間活動報告を作成して課題を明確にするとともに、次年度の計画策定時に生かしています。
- ② 所管各館で運用している日誌システムは、共有データとして全職員が閲覧できるようになっており、事業計画の実施状況を把握、共有できる仕組みです。また、事業評価や見直しは事業計画の策定とセットで全職員が関わって行います。職員が意見を出し合い、共通の認識の上で、内容の充実や新しい取組みの計画が行われます。
- ③ 法人独自に「事故防止マニュアル」「緊急時の対応に関するマニュアル」「感染症予防対策のためのマニュアル」等、各種危機管理のマニュアルを整備しています。また、定期的な避難・消火訓練や「ヒヤリハット」の報告等、具体的な利用者の安全対策を講じています。併せて、各館の立地条件にあった「防災マニュアル」を作成するなど、安全な児童館運営のための取組みが計画的に行われています。
- ④ 所管各館で利用児童の特性に応じて、遊具の使用法や遊ぶ際の決まりなどを工夫しながら示して、安全に遊ぶことができる環境づくりに努めています。同時に、職員は子どもの主体性を損なうことがないように、子どものやりたいことを吸い上げ、できるだけ実現できるようにすることを念頭に、子どもの支援を行っています。

V. 職員と組織の能力向上

1 事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成に取り組んでいる		
1 事業所にとって必要な人材構成にしている		
1. 事業所の人事制度に関する方針（期待する職員像、職員育成・評価の考え方）を明示している		○
2. 採用に対する明確な基準を設けている		○
2 職員の質の向上に取り組んでいる		
1. 職員一人ひとりの能力向上に関する希望を把握している		○
2. 事業所の人材育成計画と職員一人ひとりの意向に基づき、個人別の育成（研修）計画を策定している		○
3. 職員一人ひとりの個人別の育成（研修）計画に基づいて、必要な支援をしている		○
2 職員一人ひとりと組織力の発揮に取り組んでいる		
1 職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる		
1. 職員の判断で実施可能な範囲と、それを超えた場合の対応方法を明示している		○
2. 職員一人ひとりの研修成果を、レポートや発表等で共有化に取り組んでいる		○
2 職員のやる気向上に取り組んでいる		
1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価・報酬（賃金、昇進・昇格、賞賛など）が連動した人材マネジメントを行っている		○
2. 就業状況（勤務時間や休暇取得、疲労・ストレスなど）を把握し、改善に取り組んでいる		○
【講評】 採用・評価・研修受講の仕組みを整え、人材確保と育成を進めています		
① 職員採用は、透明性確保のために公募による採用試験を行っています。試験は筆記、小論文、実地試験などを行っており、基準が明確な評定表に基づいて可否判断がされる仕組みを確立しています。 ② 各館で定期的に館長による職員面談を行い、職員一人ひとりから職務への希望、課題、資質向上への意向などを聞き取り、人員配置や人材育成計画等の参考としています。 ③ 法人独自の人事考課制度とOJTの導入により、各館職員の資質・専門性の評価の明確化と効果性の向上を図っています。法人では考課者の資質が重要であることを館長に伝え、館長はその責任を果たすべく、職員ヒアリングに臨んでいます。また、この人事考課は児童館長への昇格に考慮されます。 ④ すべての職員に「報・連・相」を徹底するよう心がけています。 ⑤ 各館では職員一人ひとりの研修受講状況を管理するとともに、人材育成の課題や目標を立てています。これに加えて、職員自身の意向も加味し各館の資質向上を図っています。研修終了後はレポートの提出が義務付けられており、伝達研修により研修内容の全体化と定着化を進めています。また、新たな採用職員、1年目の職員や初異動の職員は、実務の中で学びを得てもらうため、OJT制度を導入してサポートしています。		

VI. サービス提供のプロセス

1 サービス情報の提供

1 利用者や地域住民に対してサービスの情報を提供している

1. 利用者や地域住民が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○
2. 利用者や地域住民の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	○
3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	○
4. 事業所の利用促進につながるように創意ある広報活動がおこなわれている	○

【講評】

地域と協力しながら児童館の情報の周知に努めています。

- ① 児童館横にある掲示板は、対象別に掲示ができるよう新たに設置し、小学生用、乳幼児用に分けて掲示しています。また掲示板の高さも子どもの目線に合せた高さにしたり、地域の情報も掲示することで利用者や地域の方の目に留まりやすい工夫をしています。
- ② 児童館のお便りは対象別に作成し、それぞれ対象者へ届くように配付をしています。乳幼児対象のお便りは、北区子どもはぐくみ室に置いていただく他、児童館情報をはぐくみ便りに掲載しています。また子育てアプリにも行事などを掲載していただき周知を図っています。小学生用便りにはルビを振り、子ども自身が読めるような配慮をし、隣接する小学校と近隣の小学校2校に全校配付をする他、保育所や行政、関係機関、児童館運営協力会にも配布をしています。その他、地域の回覧板には回覧板のサイズに合わせた便りを作成し、町内の方々に見やすくなるような工夫をしています。
- ③ 児童館のHP（ホームページ）にお便りを掲載するほか「あそびにおいでよじどうかん」として児童館案内を掲載し、児童館を知らない方への周知を図っています。地域の会議では、児童館が誰でも利用できることを知らない家庭もまだあるのではないかと意見をいただき、今後さらなる周知方法を検討しています。

2 サービスの実施

1 遊びの環境整備を行っている

1. 遊ぶ際に守るべき事項（きまり）が、利用者に理解できるように決められている	○
2. 乳幼児から中高生までの子どもすべてが日常的に気軽に利用できる環境がある	○
3. 子どもが自ら遊びを作り出したり、遊びを選択したりできるようにしている	○
4. 幅広い年齢の児童が交流できる場が日常的に設定されている	○

【講評】

子どもの状況に応じて、安心して遊べる環境設定の工夫をしています。

- ① 初めて児童館を利用する方には、児童館のパンフレットや児童館便りを使って、児童館のルールや遊ぶ場所の説明をしています。また館内にも利用者に向けた遊具の貸し出し方法の掲示や、片づけやすいよう写真を貼るなどのわかりやすくする工夫をしています。遊ぶ際のルールなどは、年齢や人数など状況に応じて子どもたち自身が考えるよう、職員がコーディネートをしています。
- ② 館内だけではなく、隣接する小学校の校庭を他の学校の子どもも利用することができます。利用可能な日は子どもが目で見えてわかるよう、館内に掲示をすることで子ども自身の遊びの選択にもつながっています。またパーテーションやレジャーシートなどを使って、静と動の遊びを分けることで限られた館内の遊び場を確保しています。工作などもできるよう空き箱を集めた場所や、子どもが作成したすごろくなど、子どもの発想や創造力を大事にしています。
- ③ 乳幼児親子はクラブ以外にも日常的な来館があり、遊具なども保護者が自由に出し入れして利用しています。中高生世代に向けた遊具や時間の設定をしていますが、利用者は少ないのが現状です。

2 子どもの発達過程に応じた支援を行っている

1. 職員が、子どもの発達の一般的な特徴や発達過程について、研修などで学んでいる	○
2. 子ども一人ひとりの発達特性を把握し、発達の個人差を踏まえて支援を行っている	○
3. 子どもへの対応について、個々の事例に関する検討が職員間で行われている	○

	<p>【講評】</p> <p>積極的に研修を受講し、児童館内の情報共有に努めています。</p> <p>① 京都市児童館学童連盟主催の研修や行政研修などを積極的に受講することで、子どもの発達過程の学びを深めています。研修を受講した後、他の職員への資料回覧や伝達をする時間を取ることで、全体の情報共有に努めています。</p> <p>② 日常的な打ち合わせでは、記録を取りながら必要に応じて事例検討を行うなど、子ども一人ひとりに応じた支援を心がけています。</p> <p>③ 日々の打合せや事例検討は主に正規職員のため、準職員との共通認識が持ちにくい状況でしたが、合同会議を設定することで、情報共有の機会を作っています。</p>														
3	<p>乳幼児と保護者への対応を行っている</p> <table> <tr> <td>1. 乳幼児と保護者が、自由に交流できる場を提供している</td><td>○</td></tr> <tr> <td>2. 乳幼児と保護者の交流の促進に配慮している</td><td>○</td></tr> <tr> <td>3. 子どもの発達上の課題について、気軽に相談できるように配慮している</td><td>○</td></tr> <tr> <td>4. 乳幼児活動は、参加者のニーズに基づいたものになっている</td><td>○</td></tr> <tr> <td>5. 保護者が主体的に運営できるように活動を支援している</td><td>○</td></tr> <tr> <td>6. 児童虐待の予防に向けて、保護者の子育てへの不安や課題に対して継続的に支援し、必要に応じて相談機関等につないでいる</td><td>○</td></tr> <tr> <td>7. 乳幼児と中・高校生世代等とのふれあい体験を実施している</td><td>—</td></tr> </table> <p>【講評】</p> <p>子どもの月齢や保護者のニーズに合わせた活動を取り入れています。</p> <p>① 初めての子育てとなる第1子限定の0歳児クラブ「ぷくぷくクラブ」や、半期毎の登録制の1歳～1歳半「てくてくクラブ」、年間登録の1歳半以上の「すくすくクラブ」の他、いつでも登録できるクラブ、年齢に関係なく自由に参加できるものなど様々な保護者のニーズに合わせた活動をしています。月齢の低い乳児親子は同じ成長段階の子を持つ保護者同士の出会いの機会にもなり、その後の児童館利用につながっています。</p> <p>② クラブ毎に年間計画や目標を立てることで、職員全体で共有し活動することにつながっています。また毎回の記録を取ることで活動内容の他、子どもや保護者の様子を共有し保護者の子育て不安などにいち早く対応できるようにしています。テーマを決めたフリートークでは保護同士の会話から、悩みの解決に繋がったり、保健師や保育士がアドバイスをする機会を設けるなど育児不安への取り組みにも力を入れています。その他、「おしゃべりクラブバンブー」や「カフェフラット紫竹」など地域の方々が主催する居場所も保護者と地域の方が顔見知りになり相談できる機会となっています。</p> <p>③ 各クラブ活動の中で保護者が中心となって行う企画を取り入れ、保護者の自主的な活動につながるような支援をしています。保護者主体のサークル活動「ちくちく」は、お互いの子どもを保護者同士で保育しながら手芸を楽しむサークルとして活動しています。また年度末に行う利用者アンケートから保護者のニーズを把握したり、日常の会話から声を聞くことで次年度の活動に活かしています。</p> <p>④ 中高生世代とのふれあい事業は、現在は行っていないですが、近隣児童館の実施を参考にしながら、今後検討していく予定です。</p>	1. 乳幼児と保護者が、自由に交流できる場を提供している	○	2. 乳幼児と保護者の交流の促進に配慮している	○	3. 子どもの発達上の課題について、気軽に相談できるように配慮している	○	4. 乳幼児活動は、参加者のニーズに基づいたものになっている	○	5. 保護者が主体的に運営できるように活動を支援している	○	6. 児童虐待の予防に向けて、保護者の子育てへの不安や課題に対して継続的に支援し、必要に応じて相談機関等につないでいる	○	7. 乳幼児と中・高校生世代等とのふれあい体験を実施している	—
1. 乳幼児と保護者が、自由に交流できる場を提供している	○														
2. 乳幼児と保護者の交流の促進に配慮している	○														
3. 子どもの発達上の課題について、気軽に相談できるように配慮している	○														
4. 乳幼児活動は、参加者のニーズに基づいたものになっている	○														
5. 保護者が主体的に運営できるように活動を支援している	○														
6. 児童虐待の予防に向けて、保護者の子育てへの不安や課題に対して継続的に支援し、必要に応じて相談機関等につないでいる	○														
7. 乳幼児と中・高校生世代等とのふれあい体験を実施している	—														
4	<p>小学生への対応を行っている（核となる児童館活動）</p> <table> <tr> <td>1. 職員が個別・集団援助技術を念頭において、個人や集団の成長に向けて働きかけている</td><td>○</td></tr> <tr> <td>2. 子どもが自ら作り出したり遊びを選択できるように環境を整えている</td><td>○</td></tr> <tr> <td>3. 子どもが自発的・創造的に活動できるよう、対応や働きかけについて職員間で確認しあっている</td><td>○</td></tr> <tr> <td>4. 行事やクラブ活動が、日常活動とのバランスや子どもの自主性・社会性を育てることを意識して企画されている</td><td>○</td></tr> </table>	1. 職員が個別・集団援助技術を念頭において、個人や集団の成長に向けて働きかけている	○	2. 子どもが自ら作り出したり遊びを選択できるように環境を整えている	○	3. 子どもが自発的・創造的に活動できるよう、対応や働きかけについて職員間で確認しあっている	○	4. 行事やクラブ活動が、日常活動とのバランスや子どもの自主性・社会性を育てることを意識して企画されている	○						
1. 職員が個別・集団援助技術を念頭において、個人や集団の成長に向けて働きかけている	○														
2. 子どもが自ら作り出したり遊びを選択できるように環境を整えている	○														
3. 子どもが自発的・創造的に活動できるよう、対応や働きかけについて職員間で確認しあっている	○														
4. 行事やクラブ活動が、日常活動とのバランスや子どもの自主性・社会性を育てることを意識して企画されている	○														

	<p>【講評】 子どもたちの「やりたい」が実現できるよう、場所や活動内容に配慮しています。</p> <p>① 放課後児童クラブ登録児童数が多い中、自由来館は少ないのが現状ですが、共に過ごしやすい環境に配慮しています。隣接する小学校の校庭は、在籍児以外の子どもも児童館来館者として利用ができることをアピールしたり、高学年向けの活動を取り入れることで、新たな来館者につなげることができます。また来館した子どもの「やりたい」の声に耳を傾け、できるだけ実現できるよう職員間で話し合っています。</p> <p>② 放課後児童クラブ児童も参加できる登録制のクラブ活動や、日常的な遊びを通して異年齢の交流が図られています。「フラダンス」では地域の方が講師となり、地域のイベントで発表する機会を作っています。また「けん玉クラブ」では、子どもたちが「けん玉ダンス」を創作し、お互いを高め合う関係につながっています。他にも「きりえクラブ」では作品を掲示することで、よりレベルアップを目指すなど、子どもたちの意欲にもなっています。</p> <p>③ 子どもの下校や習い事の関係から、イベントや活動が土曜日になることが多く、参加していない子どもの居場所や自由遊びの時間の確保が課題となっています。</p>										
5	<p>中学生・高校生世代への対応を行っている</p> <table border="1"> <tr> <td>1. 中・高校生世代も利用できるようになっている</td><td>○</td></tr> <tr> <td>2. 中・高校生世代の文化活動やスポーツ活動に必要なスペースや備品がある</td><td>○</td></tr> <tr> <td>3. 中・高校生世代が自ら企画する活動がある</td><td>—</td></tr> <tr> <td>4. 思春期の発達特性について、職員が理解するための取り組みが行われている</td><td>○</td></tr> </table> <p>【講評】 中高生世代の利用促進のため、時間や遊具などの設定をしています。</p> <p>① 日常的な来館者は放課後児童クラブ利用者の0Bや0Gが数名と少ないですが、児童館内の遊具や図書などいつでも利用できる準備をしています。また17時以降は中高生世代の時間とし、遊戯室でバスケットや卓球台を出すなどの環境設定をしています。</p> <p>② 近隣中学校の職場体験を積極的に受け入れており、児童館を利用したことのない中学生が足を運ぶきっかけにもなっています。体験後の利用につながるように声掛けもしていますが、児童館利用にはつながっていない状況です。中学校への便り配布をしています。17時以降の利用の仕方や中学生向けの情報が少ないため、今後紙面づくりを検討することを期待します。乳幼児との触れ合い体験も、近隣の児童館が積極的に取り組んでいるため、参考にしながら中学校との連携を検討しています。</p> <p>③ 思春期の発達特性については、研修等に参加することで理解に努めています。</p>	1. 中・高校生世代も利用できるようになっている	○	2. 中・高校生世代の文化活動やスポーツ活動に必要なスペースや備品がある	○	3. 中・高校生世代が自ら企画する活動がある	—	4. 思春期の発達特性について、職員が理解するための取り組みが行われている	○		
1. 中・高校生世代も利用できるようになっている	○										
2. 中・高校生世代の文化活動やスポーツ活動に必要なスペースや備品がある	○										
3. 中・高校生世代が自ら企画する活動がある	—										
4. 思春期の発達特性について、職員が理解するための取り組みが行われている	○										
6	<p>子どもの権利を尊重した支援を行っている</p> <table border="1"> <tr> <td>1. 子どもの権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている</td><td>○</td></tr> <tr> <td>2. 子ども自身が子どもの権利を知る機会が設けられている</td><td>○</td></tr> <tr> <td>3. 子どもが困ったときや悩んだときに、職員に相談できるようになっている</td><td>○</td></tr> <tr> <td>4. 子どもの年齢や発達の程度に応じて子どもの意見や気持ちを尊重している</td><td>○</td></tr> <tr> <td>5. 子どもの意見が運営や活動に反映されている</td><td>○</td></tr> </table> <p>【講評】 子どもの意見尊重や子どもの気持ちに配慮した支援をしています。</p> <p>① 子どもの権利擁護については、京都市児童館活動指針や法人の倫理マニュアルを基本にして、全職員が理解を深めています。日頃から子どもとの信頼関係に努めています。子どもからの相談内容は、職員間で共有してよいのか、保護者に伝えてよいのか、また相手などに伝えて良いかなど、子どもの意思を尊重することを大事にしています。</p> <p>② 子どもの権利条約など子ども自身が権利を知る機会は掲示物にして周知していますが、まだ不十分と感じています。今後は職員の学びと共に子どもたちが子どもの権利について、よりわかりやすく知る機会を作っていくことを検討しています。</p> <p>③ 年度末には法人の利用者アンケートを実施し、子どもの意見を聞き取り活動に活かしています。児童館まつりやおみせやさんごっこなど、イベント時は実行委員会を通じて、学校の違う子ども同士も意見を出</p>	1. 子どもの権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている	○	2. 子ども自身が子どもの権利を知る機会が設けられている	○	3. 子どもが困ったときや悩んだときに、職員に相談できるようになっている	○	4. 子どもの年齢や発達の程度に応じて子どもの意見や気持ちを尊重している	○	5. 子どもの意見が運営や活動に反映されている	○
1. 子どもの権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている	○										
2. 子ども自身が子どもの権利を知る機会が設けられている	○										
3. 子どもが困ったときや悩んだときに、職員に相談できるようになっている	○										
4. 子どもの年齢や発達の程度に応じて子どもの意見や気持ちを尊重している	○										
5. 子どもの意見が運営や活動に反映されている	○										

	し合えるよう職員がコーディネートをしています。また放課後児童クラブでは3年生以上の学年会議を設け、テーマに沿った会議をしています。意見交換の中で言葉の大切さを伝えながら、お互いの意見を尊重することにつなげています。																
7	<p>配慮を要する子ども・家庭への支援を行っている</p> <table> <tr> <td>1. 保護者からの相談に日常的に対応できる体制がある</td><td>○</td></tr> <tr> <td>2. 障害の有無に関わらず子ども同士がお互いに協力できるような活動内容や環境に配慮している</td><td>○</td></tr> <tr> <td>3. 保護者の不適切な養育や、児童虐待の疑いのある子どもの情報を得たときは、組織として関係機関に連絡し、連携して対応を図っている</td><td>○</td></tr> <tr> <td>4. 子どもの活動の様子から必要があると判断した場合には、家庭と連絡を取ることにしている</td><td>○</td></tr> </table> <p>【講評】 保護者との信頼関係づくりに努め、子どものより良い支援につなげています。</p> <p>① お迎え時に子どもの様子を伝えることで、保護者と気軽に話せる関係づくりを心がけています。保護者からの相談や個別対応が必要な場合は、事務室で何うなど環境にも配慮しています。</p> <p>② 放課後児童クラブ登録児童は個人面談を年2回行い、保護者の意向を確認しています。また内容は記録を取り、職員全体で共有することで共通した支援を心がけています。子ども同士が互いを認め合いながら過ごせるよう、また子どものペースに合わせた活動に配慮をしています。</p> <p>③ 近隣小学校とはお互いに、子どもの様子や家庭の様子を把握しながら状況に応じて情報共有を行い、連携した支援をしています。また必要に応じて関係機関と連携を図っています。</p>	1. 保護者からの相談に日常的に対応できる体制がある	○	2. 障害の有無に関わらず子ども同士がお互いに協力できるような活動内容や環境に配慮している	○	3. 保護者の不適切な養育や、児童虐待の疑いのある子どもの情報を得たときは、組織として関係機関に連絡し、連携して対応を図っている	○	4. 子どもの活動の様子から必要があると判断した場合には、家庭と連絡を取ることにしている	○								
1. 保護者からの相談に日常的に対応できる体制がある	○																
2. 障害の有無に関わらず子ども同士がお互いに協力できるような活動内容や環境に配慮している	○																
3. 保護者の不適切な養育や、児童虐待の疑いのある子どもの情報を得たときは、組織として関係機関に連絡し、連携して対応を図っている	○																
4. 子どもの活動の様子から必要があると判断した場合には、家庭と連絡を取ることにしている	○																
8	<p>地域の子どもの育成環境づくりを行っている</p> <table> <tr> <td>1. 住民による子育て支援活動や健全育成活動を促進している</td><td>○</td></tr> <tr> <td>2. 地域社会で子どもが安全に過ごせるような取り組みをしている</td><td>○</td></tr> <tr> <td>3. 児童館運営協議会等を設け、地域住民と共に育成環境づくりを検討する機会がある</td><td>○</td></tr> <tr> <td>4. 児童館を利用する子どもが地域住民と直接交流できる機会を設けている</td><td>○</td></tr> <tr> <td>5. 児童館の活動と学校の行事等について学校と情報交換を行っている</td><td>○</td></tr> <tr> <td>6. 児童館や学校での子どもの様子等について学校と情報交換を行っている</td><td>○</td></tr> <tr> <td>7. 児童館を出て、地域の児童遊園や公園、子どもが利用できる他の施設等で事業を実施することがある</td><td>○</td></tr> <tr> <td>8. 地域住民やNPO、関係機関等と連携して活動している</td><td>○</td></tr> </table> <p>【講評】 地域の関係機関と協力・連携した子どもの健全育成活動が活発です。</p> <p>① 紫竹児童館運営協力が組織されており、小学校や、PTA、学区社協、自治連合会、女性会など地域の子どもに関する関係団体が参加し年1回の会議の他、児童館活動に積極的に協力いただいています。また紫竹学区地域子育て支援ステーションネットワーク会議にも参加し、関係機関との連携を図っています。</p> <p>② 警察署と連携して交通安全や防犯教室、消防署と連携した避難訓練など、子どもの安全安心も地域全体で見守っています。また民生児童委員、紫竹学区社協との共催事業の子育てサロンや近隣保育所との子育て講演会など児童館を会場にして活動を行っています。紫竹自治連合会福祉委員会の協力で開催している「ふらっと紫竹」では主に地域の一人暮らしの高齢者と子どもたちが交流を図る機会となっており、児童館職員も参加することで地域の高齢者につながるきっかけにもなっています。</p> <p>③ 児童館内だけではなく、地域へ出た活動も関係機関と連携して行っています。自治連合会の防災訓練に参加したり、地域の行事に参加することで、子どもや職員が地域の人々と顔が見える関係づくりになっています。近隣の公園に出向く「公園であそぼう」では地域子育てステーション事業として近隣保育所、児童館と共に活動しています。</p> <p>④ 隣接する小学校とは学校行事や児童館のイベントなどの情報は毎月のお便りを通じて行っており、状況に応じて学校内の施設を借りるなど協力いただいています。また子どもに関する情報交換も適宜行っていますが、隣接小学校以外の小学校との連携が今後の課題となっています。</p>	1. 住民による子育て支援活動や健全育成活動を促進している	○	2. 地域社会で子どもが安全に過ごせるような取り組みをしている	○	3. 児童館運営協議会等を設け、地域住民と共に育成環境づくりを検討する機会がある	○	4. 児童館を利用する子どもが地域住民と直接交流できる機会を設けている	○	5. 児童館の活動と学校の行事等について学校と情報交換を行っている	○	6. 児童館や学校での子どもの様子等について学校と情報交換を行っている	○	7. 児童館を出て、地域の児童遊園や公園、子どもが利用できる他の施設等で事業を実施することがある	○	8. 地域住民やNPO、関係機関等と連携して活動している	○
1. 住民による子育て支援活動や健全育成活動を促進している	○																
2. 地域社会で子どもが安全に過ごせるような取り組みをしている	○																
3. 児童館運営協議会等を設け、地域住民と共に育成環境づくりを検討する機会がある	○																
4. 児童館を利用する子どもが地域住民と直接交流できる機会を設けている	○																
5. 児童館の活動と学校の行事等について学校と情報交換を行っている	○																
6. 児童館や学校での子どもの様子等について学校と情報交換を行っている	○																
7. 児童館を出て、地域の児童遊園や公園、子どもが利用できる他の施設等で事業を実施することがある	○																
8. 地域住民やNPO、関係機関等と連携して活動している	○																

9	子どもを含めたボランティアの育成と活動支援を行っている	
	1. 子どもの活動にお手伝いやボランティア活動を取り入れ、健全育成活動の一環として実施している	○
	2. 乳幼児の保護者の主体的な活動を支援しつつ、ボランティアとして育成している	—
	3. 地域住民を受け入れ、ボランティアとして育成している	○
	【講評】 児童館活動に地域の方々を積極的に受け入れています。	
	① じどうかんまつりなど、児童館活動においては子ども実行員会を立ち上げ、子どもたちが積極的に関われるようにしています。日常的なお手伝いなども、子どもの声を拾う大事な機会として活動に活かしています。	
	② 紫竹自治連合会を通じて、将棋、折り紙の得意な方がボランティアとして来館したり、フラダンスクラブでは紫竹地域女性会の方が講師として子どもたちに関わっています。他にも館内で飼育しているメダカのお世話を児童の祖父が行ってくれるなど、地域の方々が気軽に児童館へ足を運び、関われる関係性があります。	
	③ じどうかんまつりでは、乳幼児クラブの保護者やソーイングサークルの保護者にコーナーを担当していただいているが、主体的な活動への発展には至っていません。今後の声掛けなどの工夫を検討しています。	

3 放課後児童クラブの運営【放課後児童クラブ併設の場合のみ該当】		
1	放課後児童クラブを児童館の持つ機能を生かして運営している	
	1. 放課後児童クラブは市町村の基準条例（最低基準）に基づいて行われている	○
	2. 放課後児童クラブに在籍する子どもと児童館に来館する子どもとが直接交流できるよう活動を工夫している	○
	3. 放課後児童クラブに在籍する子どもと地域の子どもや住民とが直接交流できる機会を設けている	○
2	サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている	
	1. 放課後児童クラブ利用の開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	○
	2. 放課後児童クラブの内容について、保護者の同意を得るようにしている	○
	3. 放課後児童クラブに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○
	4. 放課後児童クラブの利用が困難な場合には、理由を説明したうえで、他の相談先紹介など支援の必要に応じた対応をしている	○
3	サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている	
	1. 放課後児童クラブ利用開始時に、子どもの支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○
	2. 放課後児童クラブ利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように支援を行っている	○
	3. 放課後児童クラブ利用の終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	○
	【講評】 登録申請説明会、入会説明会を通じて児童館についても丁寧に説明をしています。	
	① 放課後児童クラブの運営は、京都市の条例や京都市児童館学童連盟の基準を基にしています。利用要件を満たし希望する児童はすべて受け入れているため、児童館内はクラブ登録児童が多い状況です。そのため自由来館児童が利用しにくくならないよう部屋や時間などを配慮し、一緒に遊べるよう工夫をしています。児童館の事業にも放課後児童クラブ登録児童が参加することができ、また地域行事への積極的に参加することで放課後児童クラブ以外の子どもたちとの自然な交流に努めています。	

②	入会を希望する家庭に向けた登録申請説明会を開催し、入会前に保護者や子どもに放課後児童クラブを理解していただく機会を作っています。申し込み後は入会説明会を行い「学童クラブ入会のご案内」を用いてクラブの説明や児童館事業の説明も丁寧にする事で、安心した利用につなげています。また必要に応じて入会前に個人面談を行い、保護者の不安の解消に努めています。
③	入会後も年数回の個人面談を行うことで、個別の配慮にも努めています。個人面談記録に記入し、職員間で共有することで、統一した支援につなげています。また、入会児童の出身保育所との懇談の機会を作り、継続した支援ができるようにしています。

4 特に配慮を要する子ども・家庭の個別状況に応じた対応と記録

1 特に配慮を要する子ども・家庭の情報収集、分析を行い、課題を理解した上で対応を図っている

1. 配慮を要する子どもや保護者の心身状況や生活状況、ニーズ等を把握し記録している	○
2. 配慮を要する子ども・家庭の支援について、関係機関と情報を共有し連携して対応している	○
3. 配慮を要する子ども・家庭の支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○
4. 配慮を要する子ども・家庭の記録は、担当する職員すべてが共有し、活用している	○

【講評】

個人面談や関係機関との連携を通じて適切な支援につなげています。

- ① 配慮が必要な家庭や希望する家庭とは個別面談を行い、保護者の意向や子どもの把握に努めています。個人面談記録や日々の様子は日誌に記録をし、職員全体が共通認識の基に支援をしています。介助者とは日々の気付きや気になることについて記録や口頭で聞く他、介助者ミーティングを行い、情報共有を図っています。
- ② 京都市児童館学童連盟主催の研修や統合育成担当者との連携、ケースカンファレンスなどの実施から、職員全体が適切な支援ができるよう学びを深めています。また地域の発達支援ネットワーク会議研修に参加することで、地域の関係者との学びの場も大事にしています。介助者についても連盟主催の介助者研修があり、学ぶ機会を作っています。
- ③ 小学校や関係機関とは適宜情報交換を行い、子どもや家庭の様子把握に努めています。また子どもの出身保育所との懇談を通じて、継続した支援の統一を図っています。

5 プライバシーの保護等個人の尊厳、権利の尊重

1 子どものプライバシー保護を徹底している

1. 子どもに関する情報（事項）を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	○
2. 子どもの羞恥心に配慮した支援を行っている	○

2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している

1. 日常活動の中で子ども一人ひとりを尊重している	○
2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている	○
3. 子どもの気持ちを傷つけるような職員の言動、放任、虐待、無視等が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に予防・再発防止対策を徹底している	○

【講評】

個人情報保護や子どもの権利尊重などの配慮を徹底しています。

- ① 個人情報に関しては、放課後児童クラブ登録児童は、年度初めの入会説明会等で確認をしています。写真の掲載に関しては事前に同意書を頂いています。また必要に応じて、その都度同意を取るなどプライバシー保護の徹底を図っています。

②	子どもからの相談ごとや個別対応が必要な場合、また保護者からの相談ごとなども、状況に応じて部屋を分けるなど、プライバシーの保護などに配慮しています。言葉使いや話し方など、子ども一人ひとりに合わせた対応を心がけ、話を聞く姿勢に配慮しながら子どもが納得できるような対応を心がけています。
③	法人の倫理マニュアルが作成されており、職場内研修を行うことで職員全体の理解に努めています。また事例検討や職員相互が振り返る機会として、適宜読み合わせをしています。

6 事業所業務の標準化

1	手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている	
	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供している児童館活動の標準的な実施方法を明確にして活動を提供している	○
	2. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○
	3. 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している	○
2	サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている	
	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている	○
	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○
	3. 職員一人ひとりが工夫・改善したサービス事例などをもとに、基本事項や手順等の改善に取り組んでいる	○
3	さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している	
	1. 打ち合わせや会議等の機会を通じて、サービスの基本事項や手順等が職員全体に行き渡るようにしている	○
	2. 職員が一定レベルの知識や技術を学べるような機会を提供している	○
	3. 職員一人ひとりのサービス提供の方法について、指導者が助言・指導している	○
	4. 職員は、わからないことが起きた際に、指導者や先輩等に相談し、助言を受けている	○

【講評】

運営主体のマニュアルを中心とした事業運営を行い、職員全体の業務の標準化を図っています。

- ① 京都市児童館活動指針や法人のマニュアルに基づき、年間計画を立てています。計画を立てる際には常に活動指針に照らし合わせることで全体の標準化を図っています。年度末に年間の活動の振り返りを行い、職員全体で見直しをする機会を作っています。また日常的な打ち合わせにおいても、気になる点などを伝えることで状況に応じて都度計画の見直しをしています。
- ② 法人共通のアンケートを実施し、利用者の意見を取り入れる機会を作っています。日常の活動や行事などは、活動記録誌を作成し終了後には振り返りを行うことで、次回に活かすようにしています。日々の業務内容や日常活動においても職員ひとり一人が意識をすることでより良い活動になるよう適宜見直しをしています。
- ③ 人事考課制度やOJTシートを取り入れて職員育成に努めています。年2回の館長ヒアリングを通して、助言指導を行い、各自の自己評価をもとに客観的に振り返る機会になっています。日々の日常業務では「報連相」を徹底することで、職員同士がお互いに助言ができる関係づくりに努めています。各研修を積極的に受講し、研修受講者は資料を回覧し館内で伝達研修を行うなど、職員全体の共通理解に努めています。

VII. 情報の保護・共有

1 情報の保護・共有に取り組んでいる		
1 事業所が蓄積している経営に関する情報の保護・共有に取り組んでいる		
1. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定している	<input type="radio"/>	
2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・保管している	<input type="radio"/>	
2 個人情報とは、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえて保護・共有している		
1. 事業所で扱っている個人情報の利用目的を明示している	<input type="radio"/>	
2. 個人情報の保護について職員（実習生やボランティアを含む）が理解し行動できるための取り組みを行っている	<input type="radio"/>	
<p>【講評】</p> <p>情報の保管・管理は端末にアクセス権を設定するなど徹底して行っています</p> <p>① 個人情報が表示されている書類は、鍵のかかる場所に保管し、必要なときは適時、職員が確認をすることになっています。また、日誌類の記録はデータ化が行われ、子どもの情報をより系統的に記録し、職員も除法の検索が容易になっています。データは厳重に保管管理が図られています。</p> <p>② 個人情報の取り扱いについては、保護者に説明を行い、理解を深めています。また同意書を求めるなど、書面でも確認した上で保管して、その取り扱いを徹底しています。</p> <p>③ 実習生やボランティアには、活動に入る前に個人情報の取扱いや秘密保持について職員から説明して個人情報保護の徹底と子どもの人権の尊重を図るようにしています。</p>		

総評

■特に良い点

ポイント1	<p>子どもの動きに合わせて環境設定や場所の工夫をしています。</p>
	<p>放課後児童クラブの登録児童数が多いため、児童館内の遊ぶ場所や居場所の確保の工夫をしています。限られたスペースの児童館内の過ごし方として、特に静と動の動きに分けることで、子どもたちの安心安全にもつなげています。隣接する小学校との良好な関係性から、在校生以外の子どもたちも日常的に校庭を利用することができ、体を動かして遊びたい子どもたちは、児童館職員と共に校庭で遊ぶことができます。また、館内での静かな遊びと宿題などの住み分けも、レジャーシートやパーテーションなどを活用して子ども自身がお互いの様子がわかり、自分たちで考えられるような工夫をしています。</p>
ポイント2	<p>乳幼児親子の子育て支援を積極的に行っています。</p>
	<p>乳幼児親子対象の子育て支援の取り組みを積極的に行っています。月齢や年齢別の登録制のクラブの他、自由に来館して遊べる時間の設定もあり、保護者のニーズや子どもの発達に合わせた選択ができるようにしています。また保護者の育児不安や悩みの解消にも力を入れています。日常的な保護者との会話から気になることを職員全体で共有したり、保護者同士のフリートークの時間を設定することで、保護者同士で悩みを解決することにもつながっています。また保健師や保育士がアドバイスする機会の設定や、地域の方々が協力している「おしゃべりクラブバンブー」「カフェフラット紫竹」など気軽におしゃべりができる機会を作っています。</p> <p>保護者が主体となって活動している手芸を楽しむサークル「ちくちく」は、保護者同士でお互いの子どもを保育し合うなどサークル活動を通して保護者同士、子ども同士のつながりにもなっています。</p>
ポイント3	<p>地域と連携して様々な健全育成活動を行っています。</p>
	<p>紫竹児童館運営協力会が組織されています。近隣の学校関係者や自治連合会、民生児童委員、女性会など地域の子どものに関する関係団体が参加し、連携を図っています。他、警察署や消防署と連携した安全安心への取り組みや、職員が地域の防災訓練に参加することで、地域全体の子どもの安全安心への取り組みを行っています。</p> <p>児童館の活動や児童館を利用した活動にも地域の方々が協力しています。乳幼児親子を中心とした活動として、民生児童委員と紫竹学区社協と共催事業の子育てサロンや近隣の保育所の保育士の来館や講演会。また紫竹自治連合会福祉委員会の「カフェフラット紫竹」では近隣の高齢者と子どもや乳幼児親子が知り合うきっかけになっています。</p> <p>隣接する小学校とは、日常的に校庭や校内施設を借用することができ、在籍児童のみならず地域の子どもの健全育成活動に協力いただいています。</p> <p>他、ボランティアなどでも児童館活動に地域の方々が多く関わるなど、地域と連携した取り組みが見られます。</p>

■改善が望まれる点

ポイント1	自由来館児童の利用促進への工夫が望めます。
	放課後児童クラブを希望する児童はすべて受け入れているため、児童館来館者の多くは放課後児童クラブ登録児童となっています。児童館は0歳から18歳までが利用できる児童福祉施設です。放課後児童クラブを利用していない地域の子どもの居場所や環境についても視野を広げて取り組むことが望めます。児童館横の掲示板や児童館だよりは、近隣小学校へ全校配布をしています。登録が必要なクラブ活動や乳幼児中心の紙面づくりとなっているようです。児童館はいつでも「誰でも」「自由に過ごせる」場所であることや日常的にできる遊びや子どもたちの居場所であることなどを、児童館たよりに掲載することで、新たな来館者につなげることが期待されます。
ポイント2	中高生世代へのアピールや取り組みに期待します。
	児童館は18歳まで利用できる施設です。放課後児童クラブや児童館を利用していた子どもたちの継続した利用につなげるためにも活動内容の検討や工夫が必要です。現在の児童館活動は乳幼児及び小学生中心となっているため、近隣中学校への便り配布はしていますが、利用にはつながらないのが現状です。中高生世代が中心に利用できる時間の周知や遊具などの紹介等、中高生世代を対象にした紙面を作成するなどの工夫をすることで、新たな利用者が期待されます。また、乳幼児親子との触れ合い体験なども今後検討し実施していくことで、児童館のアピールにつなげることが望めます。